吉野あやめ 45歳

旦那同意のリアルドキュメント！

清楚系熟女が自ら志願！
飢えたマ〇コに極太チンポをぶち込まれ
恥も外聞もない獣アクメ全開で完全撃沈！

勇気を出して、初めてのAV。

初めての、快感☆

和装美熟女 x 黒人チンポ

Pd

それから何度か打ち合わせをし、奥様の希望を尊重する形で
企画担当が企画をまとめていった。

書類等で改めて見ると、奥様はおっとりとした風貌で
とても性欲を持て余しているようには見えない、上品な和風美人。
趣味は生け花とお茶とのこと。

そんな奥様のご希望のセックス・メニューは

■黒人によるギャンバン・セックス。
■容赦ないアクメ地獄。
■淫語、マゾ責め。
■監督は山岡コーテツロー。

といったものだった。

勿論奥様に実際そんなセックスの経験はなく、浮気もしたことがないという。
性体験的にはごくごく普通の奥様なのだが
長年の欲求不満で、妄想だけが膨らんでしまっているので
この際に一気に解消してしまい、このソフトが販売されれば
それも夫婦生活の一助になれば、という算段もあるのだそうだ。

そして撮影当日。
ご夫婦がそろって上京、スタジオ・イン。
お二人の希望で、旦那様は撮影を、そばで見守って
いただく形になった。

2014年春、当社企画部に一通のメールが届いた。
それは当社の「女優応募フォーム」から送信されたものだった。

内容を見てみると、驚いたことに送り主は近畿在住のとあるご夫婦で
旦那様からの、奥様をAVに出演させて欲しいという依頼だった。

もちろんこのような企画の作品は世の中に沢山存在するが
その殆どはフェイクであり、実際にそのような応募があることは
この仕事をそれなりの年月続けている担当者にとっても稀なことだった。

担当者はすぐにメールで折り返し、電話で連絡。
イタズラでないことを確認した。

話を聞いてみると、どうやらご夫婦は当レーベルの
ディープなファンだという。
特にガチンコ素人投稿ものが大のお気に入りで
よく二人でご覧になっているとの事。

有難い限りである。

その後、事情をお伺いしたところ
どうやら二人はかなりの年の差婚らしく
今年45歳になる奥様に、60間近の旦那様はここ数年
性欲が追いつかず、何年も満足させきれなかったそう。
そんな中、代償行為のように見ていた当レーベルのAVに
実際出演してみたいという願望が日増しに強くなっていったそうだ。
そんな思いを思い切って旦那さんに打ち明けた奥様。
旦那様は悩んだ末、自らにも責任の一端はあることから
とうとうOKしたそうだ。

改めまして、この度はご応募ありがとうございます。

「こちらこそ、ありがとうございます。」

あちらでご主人が見守られていますが。

「はい、少し緊張してます。」

ではまず、自己紹介からお願いします。

「京都で小さい酒屋を経営させてもろてます、あやめと申します。」

あやめさん。おいくつですか？

「今年でもう45になりました、あ、もうこれ、カメラ回ってますの？」

はい。

「・・・すごく緊張します。」

リラックスして下さいね。まずは応募の動機は。

「主人がずっともう、セックスができひんようになってしまいまして。
慰めに、AVいうんですか？二人で見るようになって。その流れで
インターネットなんかも見るようになって。会員制のサイトなんかも。
そしたらおたくさんの作品が・・・恥ずかしいんですけど、すごく
興奮してしまいまして。」

気に入っていただいてありがとうございます。

「いえいえ、それで、何年もそんなんみてるうちに、妄想が
止まらへんようになってきてしもて・・・・。
うちみたいな普通の、もう女として盛りを過ぎたようなものでも
あんなふうにいやらしくなれるもんやろか・・・て思うようになりまして。」

ええ。

「年齢的にも、おたくさんの作品にはうちとそう変わらへんような歳の
女性が沢山出てはりましたから、段々羨ましくなって・・・・。
それで思い切って、旦那にお願いしてみました。」

伺ってます。奥さんは、黒人の男優が希望だそうですね。
それでは入ってもらいましょうか。

「・・・・・え？」

いかがですか？お気に召して頂けましたか？

「・・・・・・・・あ、え、ええ・・・・・その・・・・。」

お気に召さない？

「いえ、そないなことは・・・・でも、突然すぎて
目のやり場に困ってしもて・・・。」

そうですか？そう言いながら、ざっきからチラチラ目線でチンポを
追っているの、しっかりカメラで捉えてますよ。

「そ、そんな・・・・・。」

旦那さん、モニタ見ていかがですか？

(追ってますね、と離れた場所から返答。)

「それは・・・・こんなもの凄いん、目の前に突き出されたら、誰でも
見てしまいますやん・・・。」

では、まずはご希望の一つ目は合格と。

「ご、合格です・・・あぁ、凄い・・・・・これで・・・。」

これでどうなりたいんでしたっけ？奥さん。

「あ・・・あの、ビデオで見た女の人みたいに、メチャクチャにされて
狂ったみたいにイきまくりたいんです・・・・。」

・・・最近はあまり、イってらっしゃらない？

「・・・それは・・・・その・・・・。」

ではまず、最初に身体をほぐしてからにしましょうか。
奥さん、こちらの部屋にお越し下さい。

「はい・・・・。」

そして、我々は台本どおり、セックスよりもまずこの
長年快感を忘れている熟れた肉体を完全に開かせるため
予定通り隣の部屋へと移動した。

ブィーーーーーーーーン・・・・・・・。
複数の機械の振動音が、部屋に響き渡る。
体中にプラスチック製の、ピンク色の卑猥な器具を貼り付けられたまま
自由を奪われた熟妻が、まるで蓑虫にようにもぞもぞと
部屋の中央で吊り下げられたまま悶えている。

「ひい、い、あ、あぁああっ・・・・・！」

久しぶりのセックスでしょうから、まずは感覚を取り戻してもらうために
肉体と脳を活性化させましょう。奥さんにはアイマスクをしてもらって
自分の世界に没入してもらいます。
・・・監督から趣旨と説明がなされる間も、熟妻は久々の感覚に悶える。

「あ、あ、あ！これ・・・撮られてますのん・・・？あぁ、うちのこんな
　惨めな姿、撮られてもうてますのん・・・？」

ええ、とてもよく撮れてますよ。

「あぁ、凄い、こんないやらしい姿・・・・・あ、あかん、イく、イく！」

「あ、い、イくぅうううううううッ！」

ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！

うん、イきましたね。でもまだ硬いかな。
もう少しこのまま・・・・奥さん、リラックスして、何回イってもいいですからね。

「あぁ、そんな・・・こんなん、こんな生殺し酷すぎますっ！
　もう、ひと思いにさっきのんでして下さいっ！」

奥さん、ウチのビデオのファンなんでしょう？ウチのビデオでは
さっきの、なんてヌルいワード使ってましたっけ？

「あ・・・あ・・・・。」

ファンならもう一度。ウチの女優ならどんな風に振舞うか、しっかり妄想を
働かせて下さいね。リハーサルなんかないんですよ？これには。

「あ・・・・さ、さっきの、黒人さんの・・・・・。」

黒人さんの？

「あぁ、黒人さんの、極太黒チンポでトドメ刺して下さい！あぁ、！
　う、うち、ゆ、言うてもうたぁ・・・・・！」

ふふ、よく言えました、でもまだまだダメです。
このままそうだな、30分くらい放置してみましょうか。

「あぁ、そんな、酷い・・・・あ、お、イくっ！またイくッ！おおおッ！」

そうして、45歳の肉体にはいささかキツい
目覚めのアクメだったが、その後奥様は30分で8回ほど
このピンク色の玩具に強制的に絶頂を与えられ続けた。

「うもッ、う、んぶぅうううううッ！」

30分も強制アクメの末お預けを喰らったあやめさんの眼前に、とうとう
お待ちかねの黒人の極太ペニスが突き出された。
熟妻はまるでそれが初めての不貞とは思えないようながっつき方で
一気に頬をくぼませて頬張った。
旦那が見ている前で、最初からこうしたのでは、許可を得ているとはいえ
当然旦那の視線が気になりこうはいかなかっただろう。
じっくりと30分、無機的な機械の振動で無理やりにその飢えた肉体を
こじ開けたことにより、圧倒的に理性の入る隙間を狭めたのである。
このあたりは、監督もしてやったりといったところだろう。

「ん、ん、お、おいひぃ、おいひぃッ・・・・・！」

「あぁ、もう三年ぶりやわ、こんな硬く反り立ったおチンポ・・・・・！」

味はいかがですか？

「すごい味します・・・・お、雄の・・・獣の味がします・・・・。」

嫌じゃないですか？

「あぁ、は、恥ずかしい・・・全然、嫌じゃないんです・・・・これ・・・・
こ、興奮して、さっきからずっと、オツユが止まらしませんのです・・・！」

凄いですね、体臭の違いがあるから、最初は苦手な女性も
いるみたいですが、見た目と違って奥さんは肉食系なんですね。

「あぁ、言わんといて・・・こんな、こんな恥ずかしいところ
撮られたら、うち・・・・・・！」

そういいながらも、奥さんのフェラチオは止まらない。
どこで覚えたのか、バキュームフェラまで披露。
もし妄想だけでここまでタマってたのだとしたら、この奥さん
こんな上品そうに見えて、相当な好きモノだ。

「ん、ん、んんん〜〜〜〜〜〜〜〜ッ！」

片足を蟹股に上げ、大男の上に跨り
巨大なペニスをまるで大好物を与えられた動物のように
嬉しそうに吸い上げていく。
さっきまで上品そうに見えた目元は、だらしなく歪み
下品な牝のケダモノそのものになっている。

後ろから両足をがっちりと抱えられ、びしょ濡れの秘部を大男に
さらけ出され、そこに先程のピンクローターとは比べ物にならない
卑猥な動きをする男根型の玩具をずっぽりと咥え込まされ
熟妻はさらに激しく悶えていた。

「おひ、あ、あ、き、キくぅううう〜〜〜〜〜ッ！」

奥のスイートスポットをじっくりとほじくり返され
苦悶の表情を浮かべながらも、腰はしっかりと、急所を捻りながら
掘り返す、その卑猥な器具に合わせて、ねっとりとうねらせている。
むわりとした淫臭がそこから立ち上り、雄達の劣情を加速させている。

「はぁ、はぁ、すごい、き、気持ちいい・・・・！」

大分いいマンコになって来ましたねぇ、どうですか？
セックスいたくなって来たんじゃないですか？

「し、したいです・・・・！オメコしたい・・・・ッ！」

旦那さんが見てらっしゃいますけど？

「あぁ、あなた、お願い、そんなに見んといて・・・・！」

もちろん旦那さんはそんな奥さんの姿から目を離そうとしない。
数年ぶりのセックスで、ゆっくり作り変えられる妻の肉体を
食い入るように見つめている。

「お、ぁ・・・・・あひッ・・・・んぉッ！」

さっきから、奥さん、随分下品な声が漏れてますね。
旦那さん、元々奥さんはこんなふうに野生的なセックスを
される方なんですか？

(声が入らないように話しているが、旦那さんはゆっくり首を振り
否定するようなジェスチャーをしている。)

「あ、だ、だって、主人の前でこんな下品な姿、見せられませんもん・・・。」

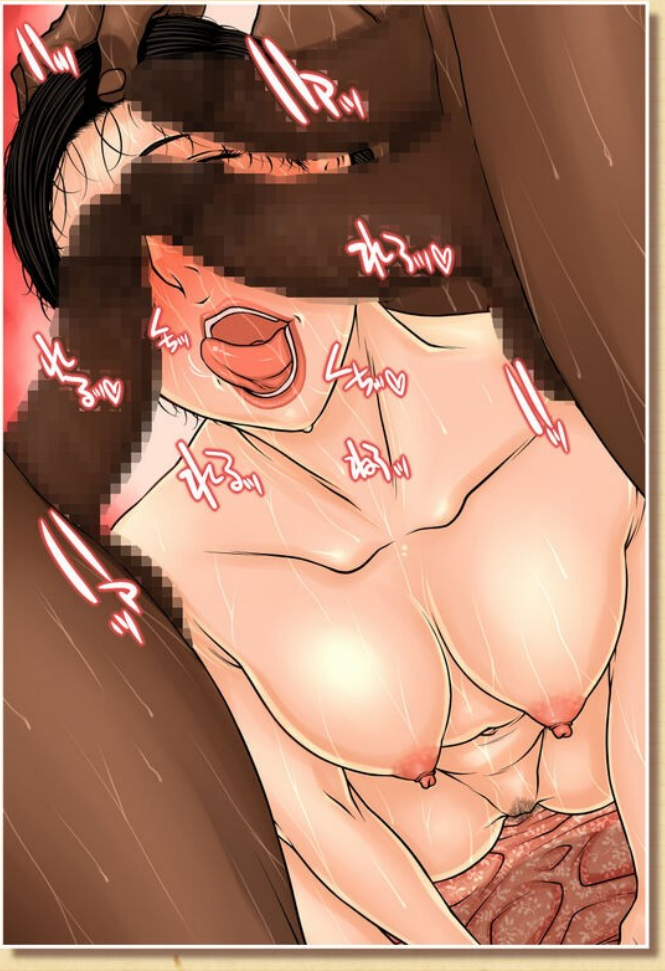
ご主人とのセックスではできないことも、AVでは出来ちゃうんですか？

「だ、だって、こんないやらしいセックスされたら、女なら誰だって・・・おうッ！」

それはつまり、ご主人のセックスはいやらしくなかったと？

「そ、そないな意味やありません・・・・あ、そ、そこッ・・・！
そこほじらんといてッ・・・・あ、お、おおうッ！」

ふふ、調子出てきましたね、奥さん。
それじゃあもっと素直になれるように、こうしてあげましょうか。



びたんッ・・・・・・・！

三本の巨根が、熟妻を取り囲む。
唾液とカウパー氏腺液が混ざり合った凄まじい雄の淫臭が、たちまち
45歳の熟女を中心にして、ドーム状に充満する。

「あ・・・・あ・・・・・・・こ・・・・・んな・・・・・・！」

熟妻の舌は、ごくごく自然に、蛇のようにその大好物の真っ黒な果実に向かって
いやらしく伸ばされたが、あと一息のところで届かず、もどかしそうに
まるでシャドウ・ボクシングの如く虚しく空を切っている。

「はぁ、はぁ、すごい臭い・・・・お、オスの・・・・におい・・・・！」

どうですか？少しは素直になれそうじゃありませんか？

「素直やなんて、そんな・・・・。」

だって、さっきからずっと、チンポに当たりもしないのに、奥さんの舌は
もどかしそうに空を切ってるじゃありませんか。ねえ、ご主人。

旦那さんは黙って妻のその惨めな姿を食い入るように見つめている。

この御馳走が欲しいなら、しっかり本性を出してくださいね。
小娘みたいに恥ずかしがったまま、中途半端にするセックスを
惰性で撮影するほど、僕たち暇じゃないんです。

「ああ・・・・ほ、本性やなんて・・・・・！」

ドスケベな奥さんの本性を丸出しにして交尾したらいいんですよ。
正直に言ってください。旦那さんとはそういうセックスをしてましたか？

「あぁ、し、してませんっ！してませんっ！主人とはそんな・・・・
　こ、交尾やなんて、そないに言えるようなセックス、したことあらしませんっ！」

はっきり言えッ！交尾したいかッ！？

「あぁ、し、したいッ！交尾したいッ！あぁ、ごめんなさい、あんたッ！
　うち、もう我慢できひんのッ！こんな御馳走チンポ目の前に出されたらッ！
　ずっと我慢してたのッ！もうオモチャでオナニーじゃ満足できひんのッ！
　したいッ！交尾したいッ！極太チンポとガチ交尾したいッ！あぁあッ！」

観念したように、熟牝が絶叫した。
三本の中から好みの一本を選び、数年ぶりに、その熟れた穴に
ゆっくりとチンポが押し当てられる。
貞淑な妻を演じていたら、一生咥え込むことのなかったであろう
浅黒いペニスは、他人の妻の秘裂を、無慈悲にゆっくりと
押し拡げていった。

「おぉおおおおおおおうッ・・・・・・！」

堰を切ったように、熟妻の口からは、その貞淑な風貌から想像できないような
ケダモノじみた声が漏れ出した。

奥さん、とうとう堪え切れなくなっちゃいましたね。

「あぁ、ご、ごめんなさい、堪忍してッ！あなた、こ、こんなんうちと違ッ・・・
んぉおおおおおおおおおおおッ！！！」

ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！

野獣のようなピストンが始まるや否や、空々しい言い訳をする
あやめさんの言葉はさえぎられ、その野獣のピストンにふさわしい
牝のケダモノの喘ぎ声が漏れ出す。

「うぉッ！おッ！ぉおッ！んぉおおおおッ！」

「ひい、お、奥ッ！キッ・・・え、えぐられるッ！おぅッ！」

ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！

腰から崩れそうな熟妻の肉体を、半ば無理やり抱え上げ
若く逞しい雄の獣は、さらに角度をつけ、上から串刺しにする。

「あがッ・・・おうッ！おうッ！おうッ！おうッ！」

まるでオットセイみたいですね、こんな奥さんを見るのは初めてですか？

(旦那さんがゆっくりと頷く。)

「こ、こんな、信じられへん、うち、こんな女やッ・・・うぉおおッ！」

相当タマってたんですね、いくら相手がワイルドだからって
ここまでとは・・・・。意図せずでしょうが、何年も旦那さんが
奥さんを焦らしていたようなものですからね。
その上AVまで見せてあてられて、奥さん一気に崩れちゃったみたいですね。

「あぁ、そうなんッ!?そうなんッ!?これ、うちだけのせいと違うのんッ!?」

勿論、奥さんの本性に、色んな状況が重なった結果ですよ。
こんな素敵な偶然、なかなかありませんから、しっかりこの機会に
楽しんで下さいね。

「あぁ、あなた、いい!?うち、楽しんでいい!?」

旦那さんがゆっくりと頷く。それを見るか見ないかの瞬間に、一気に
熟妻の理性が決壊した。

「んぉおお、もう、交尾しちゃうッ！今日はメチャクチャに交尾するッ！」

「ひいッ！ひいッ！あ、に二本めッ・・・・・・！」

二人目の男がゆっくりとあやめさんの肉体に覆いかぶさる。
バイブでは、アナルも開発済みという情報を得ていた我々は
状況に応じて二本刺しの用意もしていたのだ。
3人の中では比較的細身の、とはいえ日本人の標準から比すれば
十分な太さのペニスを持つその男にゴーサインをだすと
彼は愛液と汗とローションでゆっくりとほぐしつつ
薄い肉壁ひとつ隔てて、今まさに胎内を蹂躙しているペニスに
沿わせるように、ゆっくりとねじ込んでいった。

「ひぃいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいッ！」

たまらず、熟妻が金切り声を上げる。
だが、それは肉体の限界を訴える声ではなく、むしろ
快感の波に耐えるような牝の叫び声だった。

「お、お、おぅうううううううッ！！！」

自分とのセックスでは見たことのなかった妻の姿を目の当たりにし
旦那さんは妻のまだ見ぬ痴態を食い入るように見つめている。

「ぎ、ぎぼぢいいいいいッ！狂ううッ！くるっぢゃうッ！んぉおおお！」

ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！

「あ、あんた、ごめんなさいッ！き、気持ちいいッ！このセックス気持ちいいッ！
あんたとするセックスの何倍も気持ちいいッ！！！」

とうとう白状しちゃいましたね。

「あぁ、だ、だって、ここまで追い込まれたらッ！うぉッ！」

ゴツッ！

交互に奥の急所を突かれ、熟妻が一気に崩れる。

「ひいいいッ！これッ！二本で同時にッ！急所突いてくるのんッ！あがぁああッ！」

旦那さんの愛あるセックスより、こっちのほうがお気に入りですか。

「あぁ、愛してるッ！愛してるけどッ！こっちのほうが気持ちいいッ！
愛のないケダモノセックスのほうが断然気持ちいいッ！あぁッ！
あなたッ！か、堪忍してッ！そんな目で見んといてッ！あ、イヤッ！
み、見てッ！見ててッ！！もっと見ててッ！うちの恥ずかしいとこ
思い切り見ててぇッ！！！！」

ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！

二本のペニスが上下から打ち付けられる。
狂ったように吠えながら、熟妻は、気をやりそうなところを
ギリギリで我慢しながら、その瞬間を待つ。

奥さん、我慢しますね。もうずっとイきそうじゃないんですか？

「まだッ！い、今イったら、中途半端にッ・・・・あぁ、でもッ・・・！
　イきたい、イきたいッ！あぁ、はようッ・・・・お願い、もう堪忍してッ！」

どうしたいんですか？

「一緒にッ！一緒にイきたいッ！射精でイかされたいッ！あぁッ！
　こんなん、うちのひとにもお願いしたことないのにッ！」

ザーメンでイきたいんですね。

「おぉおおおお！ザーメン！ザーメンッ！欲しいっ！若いオスの
　濃いザーメン欲しいのッ！あぁッ！許してあんたッ！
　だって牝の本能なんやもんッ！強い牡の精子欲しいッ！」

ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！

その声を聞いてか、牡二匹がピッチを上げる。
極太のペニスでサンドイッチにされながら、熟れた牝はその肉体で
野獣の交尾を必死で受け止めている。

「お、く、来るッ！チンポ膨らんでッ・・・・あ・・・・・あ・・・・・！」

ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！

二匹の牡が吠えた瞬間、一気に大量のザーメンが放出される。
受け止めきれない精液は、そのまま熟妻の秘所から溢れ
周りに飛び散りほとばしる。

「おぅ・・・・・お・・・ぅぉおおおおおおおおおおおおッ！！！」

その雄達に負けないほどの獣の断末魔が、熟れた牝の口から発せられた。

残りの精液をゆっくりと種付けされながら、びくびくと腰を震わせ
あやめさんは交尾の余韻に浸っていた。

「はぁ、はぁ、はぁ。」

いやー、凄かったね奥さん。
こっち目線下さい。

「あ、はひ・・・。」

ついでにVサインも。
はい、ぴーす。

「ぴ、ぴ～す・・・♪」

それから、3人の男に7発と
嫉妬に狂った旦那さんに一発
合計8発の牡の子種を浴び
大満足のあやめさん。
腰は痙攣で役に立たず
しばらくザーメンまみれのまま
ベッドの上で脱力している
有様だった。

「はぁ、はぁ、すごい・・・・
こんなセックスがあったや
なんて・・・・。」

満足していただけましたか？
うちも久しぶりに、いい画が
撮れました。

「あぁ、恥ずかしい・・・。
カメラの前であない
本性出させるやなんて。」

ご主人も大興奮でした。
意識してあんな言葉を
ご主人にかけていたんですか？

「いえ、もう無我夢中で
何を言っていたかも、殆ど
覚えてないんです・・・。」

じゃあ、本音なのかも
しれませんね。

「あら・・・でも
そうかもあらしませんね。」

そういってにやりと笑う
彼女の目元は、確かに
数時間前とは別人になっていた。

-----その後。

本来持っていた獣の本性を覚醒させてしまった彼女は
当然のようにセックスの味が忘れなくなってしまったようで
数ヵ月後、正式に当レーベルからAV女優としてデビューすることになった。

旦那さんは相変わらずセックスが弱いらしいが、そんな旦那さんが
AVデビューするための唯一の交換条件が、撮影中の彼女を撮影した
メイキングビデオを必ず自分用に作って欲しいというものだった。
ハンディカムで撮影した簡素なその映像だが、売り物にはできない
生々しい痴態が収録されていて、それを見た日だけは
旦那さんは別人のようにあやめさんの肉体を求めて来るそうだ。

最近では本気セックスしかしない彼女の魅力に気付いた
一部の熟女マニアにも「吉野あやめ」の評判は上々で
当レーベルでも中堅以上のコアな人気を誇るまでになった。
全編ガチイキで、しかも作を重ねるごとに開花するマゾ性が
ファンのニーズにマッチしているようだ。
また、彼女の代名詞であるアクメ時の獣のような本気声も
そのしっとりとした普段の容貌からはイメージできないギャップで
これまた一部の熟女マニアに好評だそうだ。

次回作はギャルのコスプレをして、街中デートから
じっくりセックス、出来ればナンパまでしてみたいと
企画している。

「男優の男の子たちも、うちくらいになると年下のコも多いから
若いコたちにあないに凄い交尾されて、めちゃくちゃに吠えさせられて
泣きながら、おばちゃんのおまんこに本気で種付けして下さい、やなんて
懇願させられるのは、今でもほんまに、顔から火が出るくらい恥ずかしい
んです・・・・でも、やってるときは、本気で欲しいし、男のコのおチンポに
屈服させられる瞬間が、本当に気持ちいいんです。」

あやめさんの本領は、まだまだこれからかもしれない。

吉野あやめ 45歳

旦那同意のリアルドキュメント！

清楚系熟女が自ら志願！
飢えたマ〇コに極太チンポをぶち込まれ
恥も外聞もない獣アクメ全開で完全撃沈！

勇気を出して、初めてのAV。

初めての、快感☆

和装美熟女 x 黒人チンポ

Pd

それから何度か打ち合わせをし、奥様の希望を尊重する形で
企画担当が企画をまとめていった。

書類等で改めて見ると、奥様はおっとりとした風貌で
とても性欲を持て余しているようには見えない、上品な和風美人。
趣味は生け花とお茶とのこと。

そんな奥様のご希望のセックス・メニューは

■黒人によるギャンバン・セックス。
■容赦ないアクメ地獄。
■淫語、マゾ責め。
■監督は山岡コーテツロー。

といったものだった。

勿論奥様に実際そんなセックスの経験はなく、浮気もしたことがないという。
性体験的にはごくごく普通の奥様なのだが
長年の欲求不満で、妄想だけが膨らんでしまっているので
この際に一気に解消してしまい、このソフトが販売されれば
それも夫婦生活の一助になれば、という算段もあるのだそうだ。

そして撮影当日。
ご夫婦がそろって上京、スタジオ・イン。
お二人の希望で、旦那様は撮影を、そばで見守って
いただく形になった。

2014年春、当社企画部に一通のメールが届いた。
それは当社の「女優応募フォーム」から送信されたものだった。

内容を見てみると、驚いたことに送り主は近畿在住のとあるご夫婦で
旦那様からの、奥様をAVに出演させて欲しいという依頼だった。

もちろんこのような企画の作品は世の中に沢山存在するが
その殆どはフェイクであり、実際にそのような応募があることは
この仕事をそれなりの年月続けている担当者にとっても稀なことだった。

担当者はすぐにメールで折り返し、電話で連絡。
イタズラでないことを確認した。

話を聞いてみると、どうやらご夫婦は当レーベルの
ディープなファンだという。
特にガチンコ素人投稿ものが大のお気に入りで
よく二人でご覧になっているとの事。

有難い限りである。

その後、事情をお伺いしたところ
どうやら二人はかなりの年の差婚らしく
今年45歳になる奥様に、60間近の旦那様はここ数年
性欲が追いつかず、何年も満足させきれなかったそう。
そんな中、代償行為のように見ていた当レーベルのAVに
実際出演してみたいという願望が日増しに強くなっていったそうだ。
そんな思いを思い切って旦那さんに打ち明けた奥様。
旦那様は悩んだ末、自らにも責任の一端はあることから
とうとうOKしたそうだ。

改めまして、この度はご応募ありがとうございます。

「こちらこそ、ありがとうございます。」

あちらでご主人が見守られていますが。

「はい、少し緊張してます。」

ではまず、自己紹介からお願いします。

「京都で小さい酒屋を経営させてもろてます、あやめと申します。」

あやめさん。おいくつですか？

「今年でもう45になりました、あ、もうこれ、カメラ回ってますの？」

はい。

「・・・すごく緊張します。」

リラックスして下さいね。まずは応募の動機は。

「主人がずっともう、セックスができひんようになってしまいまして。
慰めに、AVいうんですか？二人で見るようになって。その流れで
インターネットなんかも見るようになって。会員制のサイトなんかも。
そしたらおたくさんの作品が・・・恥ずかしいんですけど、すごく
興奮してしまいまして。」

気に入っていただいてありがとうございます。

「いえいえ、それで、何年もそんなんみてるうちに、妄想が
止まらへんようになってきてしもて・・・・。
うちみたいな普通の、もう女として盛りを過ぎたようなものでも
あんなふうにいやらしくなれるもんやろか・・・て思うようになりまして。」

ええ。

「年齢的にも、おたくさんの作品にはうちとそう変わらへんような歳の
女性が沢山出てはりましたから、段々羨ましくなって・・・・。
それで思い切って、旦那にお願いしてみました。」

伺ってます。奥さんは、黒人の男優が希望だそうですね。
それでは入ってもらいましょうか。

「・・・・・え？」

いかがですか？お気に召して頂けましたか？

「・・・・・・・・あ、え、ええ・・・・・その・・・・。」

お気に召さない？

「いえ、そないなことは・・・・でも、突然すぎて
目のやり場に困ってしもて・・・。」

そうですか？そう言いながら、ざっきからチラチラ目線でチンポを
追っているの、しっかりカメラで捉えてますよ。

「そ、そんな・・・・・。」

旦那さん、モニタ見ていかがですか？

(追ってますね、と離れた場所から返答。)

「それは・・・・こんなもの凄いん、目の前に突き出されたら、誰でも
見てしまいますやん・・・。」

では、まずはご希望の一つ目は合格と。

「ご、合格です・・・あぁ、凄い・・・・・これで・・・。」

これでどうなりたいんでしたっけ？奥さん。

「あ・・・あの、ビデオで見た女の人みたいに、メチャクチャにされて
狂ったみたいにイきまくりたいんです・・・・。」

・・・最近はあまり、イってらっしゃらない？

「・・・それは・・・・その・・・・。」

ではまず、最初に身体をほぐしてからにしましょうか。
奥さん、こちらの部屋にお越し下さい。

「はい・・・・。」

そして、我々は台本どおり、セックスよりもまずこの
長年快感を忘れている熟れた肉体を完全に開かせるため
予定通り隣の部屋へと移動した。

ブィーーーーーーーーン・・・・・・・。
複数の機械の振動音が、部屋に響き渡る。
体中にプラスチック製の、ピンク色の卑猥な器具を貼り付けられたまま
自由を奪われた熟妻が、まるで蓑虫にようにもぞもぞと
部屋の中央で吊り下げられたまま悶えている。

「ひい、い、あ、あぁああっ・・・・・！」

久しぶりのセックスでしょうから、まずは感覚を取り戻してもらうために
肉体と脳を活性化させましょう。奥さんにはアイマスクをしてもらって
自分の世界に没入してもらいます。
・・・監督から趣旨と説明がなされる間も、熟妻は久々の感覚に悶える。

「あ、あ、あ！これ・・・撮られてますのん・・・？あぁ、うちのこんな
　惨めな姿、撮られてもうてますのん・・・？」

ええ、とてもよく撮れてますよ。

「あぁ、凄い、こんないやらしい姿・・・・・あ、あかん、イく、イく！」

「あ、い、イくぅうううううううッ！」

ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！ビクッ！

うん、イきましたね。でもまだ硬いかな。
もう少しこのまま・・・・奥さん、リラックスして、何回イってもいいですからね。

「あぁ、そんな・・・こんなん、こんな生殺し酷すぎますっ！
　もう、ひと思いにさっきのんでして下さいっ！」

奥さん、ウチのビデオのファンなんでしょう？ウチのビデオでは
さっきの、なんてヌルいワード使ってましたっけ？

「あ・・・あ・・・・。」

ファンならもう一度。ウチの女優ならどんな風に振舞うか、しっかり妄想を
働かせて下さいね。リハーサルなんかないんですよ？これには。

「あ・・・・さ、さっきの、黒人さんの・・・・・。」

黒人さんの？

「あぁ、黒人さんの、極太黒チンポでトドメ刺して下さい！あぁ、！
　う、うち、ゆ、言うてもうたぁ・・・・・！」

ふふ、よく言えました、でもまだまだダメです。
このままそうだな、30分くらい放置してみましょうか。

「あぁ、そんな、酷い・・・・あ、お、イくっ！またイくッ！おおおッ！」

そうして、45歳の肉体にはいささかキツい
目覚めのアクメだったが、その後奥様は30分で8回ほど
このピンク色の玩具に強制的に絶頂を与えられ続けた。

「うもッ、う、んぶぅうううううッ！」

30分も強制アクメの末お預けを喰らったあやめさんの眼前に、とうとう
お待ちかねの黒人の極太ペニスが突き出された。
熟妻はまるでそれが初めての不貞とは思えないようながっつき方で
一気に頬をくぼませて頬張った。
旦那が見ている前で、最初からこうしたのでは、許可を得ているとはいえ
当然旦那の視線が気になりこうはいかなかっただろう。
じっくりと30分、無機的な機械の振動で無理やりにその飢えた肉体を
こじ開けたことにより、圧倒的に理性の入る隙間を狭めたのである。
このあたりは、監督もしてやったりといったところだろう。

「ん、ん、お、おいひぃ、おいひぃッ・・・・・！」

「あぁ、もう三年ぶりやわ、こんな硬く反り立ったおチンポ・・・・・！」

味はいかがですか？

「すごい味します・・・・お、雄の・・・獣の味がします・・・・。」

嫌じゃないですか？

「あぁ、は、恥ずかしい・・・全然、嫌じゃないんです・・・・これ・・・・
こ、興奮して、さっきからずっと、オツユが止まらしませんのです・・・！」

凄いですね、体臭の違いがあるから、最初は苦手な女性も
いるみたいですが、見た目と違って奥さんは肉食系なんですね。

「あぁ、言わんといて・・・こんな、こんな恥ずかしいところ
撮られたら、うち・・・・・・！」

そういいながらも、奥さんのフェラチオは止まらない。
どこで覚えたのか、バキュームフェラまで披露。
もし妄想だけでここまでタマってたのだとしたら、この奥さん
こんな上品そうに見えて、相当な好きモノだ。

「ん、ん、んんん〜〜〜〜〜〜〜〜ッ！」

片足を蟹股に上げ、大男の上に跨り
巨大なペニスをまるで大好物を与えられた動物のように
嬉しそうに吸い上げていく。
さっきまで上品そうに見えた目元は、だらしなく歪み
下品な牝のケダモノそのものになっている。

後ろから両足をがっちりと抱えられ、びしょ濡れの秘部を大男に
さらけ出され、そこに先程のピンクローターとは比べ物にならない
卑猥な動きをする男根型の玩具をずっぽりと咥え込まされ
熟妻はさらに激しく悶えていた。

「おひ、あ、あ、き、キくぅううう〜〜〜〜〜ッ！」

奥のスイートスポットをじっくりとほじくり返され
苦悶の表情を浮かべながらも、腰はしっかりと、急所を捻りながら
掘り返す、その卑猥な器具に合わせて、ねっとりとうねらせている。
むわりとした淫臭がそこから立ち上り、雄達の劣情を加速させている。

「はぁ、はぁ、すごい、き、気持ちいい・・・・！」

大分いいマンコになって来ましたねぇ、どうですか？
セックスいたくなって来たんじゃないですか？

「し、したいです・・・・！オメコしたい・・・・ッ！」

旦那さんが見てらっしゃいますけど？

「あぁ、あなた、お願い、そんなに見んといて・・・・！」

もちろん旦那さんはそんな奥さんの姿から目を離そうとしない。
数年ぶりのセックスで、ゆっくり作り変えられる妻の肉体を
食い入るように見つめている。

「お、ぁ・・・・・あひッ・・・・んぉッ！」

さっきから、奥さん、随分下品な声が漏れてますね。
旦那さん、元々奥さんはこんなふうに野生的なセックスを
される方なんですか？

(声が入らないように話しているが、旦那さんはゆっくり首を振り
否定するようなジェスチャーをしている。)

「あ、だ、だって、主人の前でこんな下品な姿、見せられませんもん・・・。」

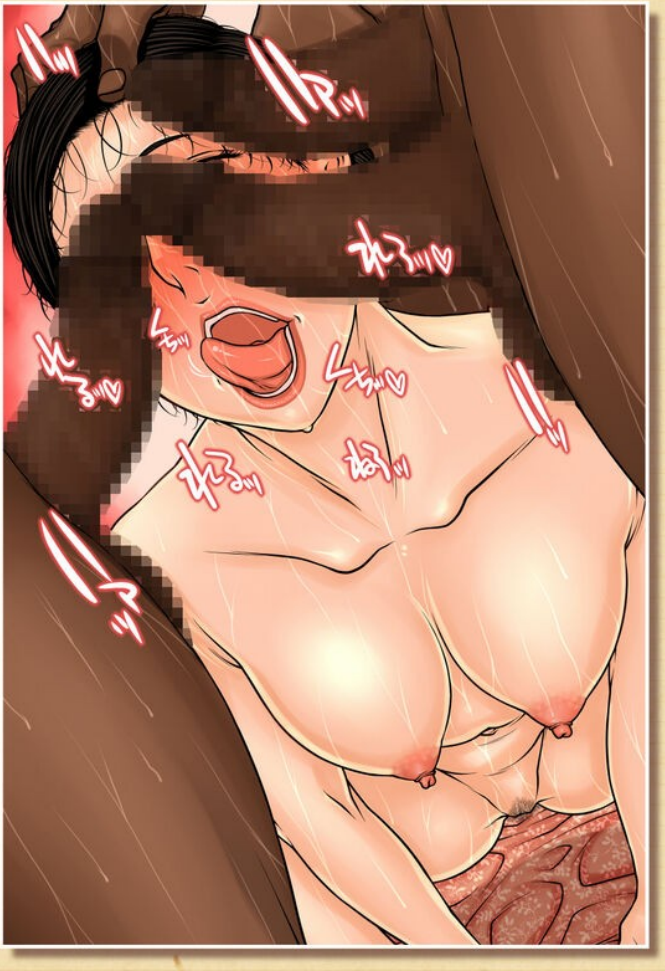
ご主人とのセックスではできないことも、AVでは出来ちゃうんですか？

「だ、だって、こんないやらしいセックスされたら、女なら誰だって・・・おうッ！」

それはつまり、ご主人のセックスはいやらしくなかったと？

「そ、そないな意味やありません・・・・あ、そ、そこッ・・・！
そこほじらんといてッ・・・・あ、お、おおうッ！」

ふふ、調子出てきましたね、奥さん。
それじゃあもっと素直になれるように、こうしてあげましょうか。



びたんッ・・・・・・・！

三本の巨根が、熟妻を取り囲む。
唾液とカウパー氏腺液が混ざり合った凄まじい雄の淫臭が、たちまち
45歳の熟女を中心にして、ドーム状に充満する。

「あ・・・・あ・・・・・・・こ・・・・・んな・・・・・・！」

熟妻の舌は、ごくごく自然に、蛇のようにその大好物の真っ黒な果実に向かって
いやらしく伸ばされたが、あと一息のところで届かず、もどかしそうに
まるでシャドウ・ボクシングの如く虚しく空を切っている。

「はぁ、はぁ、すごい臭い・・・・お、オスの・・・・におい・・・・！」

どうですか？少しは素直になれそうじゃありませんか？

「素直やなんて、そんな・・・・。」

だって、さっきからずっと、チンポに当たりもしないのに、奥さんの舌は
もどかしそうに空を切ってるじゃありませんか。ねえ、ご主人。

旦那さんは黙って妻のその惨めな姿を食い入るように見つめている。

この御馳走が欲しいなら、しっかり本性を出してくださいね。
小娘みたいに恥ずかしがったまま、中途半端にするセックスを
惰性で撮影するほど、僕たち暇じゃないんです。

「ああ・・・・ほ、本性やなんて・・・・・！」

ドスケベな奥さんの本性を丸出しにして交尾したらいいんですよ。
正直に言ってください。旦那さんとはそういうセックスをしてましたか？

「あぁ、し、してませんっ！してませんっ！主人とはそんな・・・・
　こ、交尾やなんて、そないに言えるようなセックス、したことあらしませんっ！」

はっきり言えッ！交尾したいかッ！？

「あぁ、し、したいッ！交尾したいッ！あぁ、ごめんなさい、あんたッ！
　うち、もう我慢できひんのッ！こんな御馳走チンポ目の前に出されたらッ！
　ずっと我慢してたのッ！もうオモチャでオナニーじゃ満足できひんのッ！
　したいッ！交尾したいッ！極太チンポとガチ交尾したいッ！あぁあッ！」

観念したように、熟牝が絶叫した。
三本の中から好みの一本を選び、数年ぶりに、その熟れた穴に
ゆっくりとチンポが押し当てられる。
貞淑な妻を演じていたら、一生咥え込むことのなかったであろう
浅黒いペニスは、他人の妻の秘裂を、無慈悲にゆっくりと
押し拡げていった。

「おぉおおおおおおおうッ・・・・・・！」

堰を切ったように、熟妻の口からは、その貞淑な風貌から想像できないような
ケダモノじみた声が漏れ出した。

奥さん、とうとう堪え切れなくなっちゃいましたね。

「あぁ、ご、ごめんなさい、堪忍してッ！あなた、こ、こんなんうちと違ッ・・・
んぉおおおおおおおおおおおッ！！！」

ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！

野獣のようなピストンが始まるや否や、空々しい言い訳をする
あやめさんの言葉はさえぎられ、その野獣のピストンにふさわしい
牝のケダモノの喘ぎ声が漏れ出す。

「うぉッ！おッ！ぉおッ！んぉおおおおッ！」

「ひい、お、奥ッ！キッ・・・え、えぐられるッ！おぅッ！」

ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！

腰から崩れそうな熟妻の肉体を、半ば無理やり抱え上げ
若く逞しい雄の獣は、さらに角度をつけ、上から串刺しにする。

「あがッ・・・おうッ！おうッ！おうッ！おうッ！」

まるでオットセイみたいですね、こんな奥さんを見るのは初めてですか？

(旦那さんがゆっくりと頷く。)

「こ、こんな、信じられへん、うち、こんな女やッ・・・うぉおおッ！」

相当タマってたんですね、いくら相手がワイルドだからって
ここまでとは・・・・。意図せずでしょうが、何年も旦那さんが
奥さんを焦らしていたようなものですからね。
その上AVまで見せてあてられて、奥さん一気に崩れちゃったみたいですね。

「あぁ、そうなんッ!?そうなんッ!?これ、うちだけのせいと違うのんッ!?」

勿論、奥さんの本性に、色んな状況が重なった結果ですよ。
こんな素敵な偶然、なかなかありませんから、しっかりこの機会に
楽しんで下さいね。

「あぁ、あなた、いい!?うち、楽しんでいい!?」

旦那さんがゆっくりと頷く。それを見るか見ないかの瞬間に、一気に
熟妻の理性が決壊した。

「んぉおお、もう、交尾しちゃうッ！今日はメチャクチャに交尾するッ！」

「ひいッ！ひいッ！あ、に二本めッ・・・・・・！」

二人目の男がゆっくりとあやめさんの肉体に覆いかぶさる。
バイブでは、アナルも開発済みという情報を得ていた我々は
状況に応じて二本刺しの用意もしていたのだ。
3人の中では比較的細身の、とはいえ日本人の標準から比すれば
十分な太さのペニスを持つその男にゴーサインをだすと
彼は愛液と汗とローションでゆっくりとほぐしつつ
薄い肉壁ひとつ隔てて、今まさに胎内を蹂躙しているペニスに
沿わせるように、ゆっくりとねじ込んでいった。

「ひぃいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいッ！」

たまらず、熟妻が金切り声を上げる。
だが、それは肉体の限界を訴える声ではなく、むしろ
快感の波に耐えるような牝の叫び声だった。

「お、お、おぅうううううううッ！！！」

自分とのセックスでは見たことのなかった妻の姿を目の当たりにし
旦那さんは妻のまだ見ぬ痴態を食い入るように見つめている。

「ぎ、ぎぼぢいいいいいッ！狂ううッ！くるっぢゃうッ！んぉおおお！」

ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！

「あ、あんた、ごめんなさいッ！き、気持ちいいッ！このセックス気持ちいいッ！
あんたとするセックスの何倍も気持ちいいッ！！！」

とうとう白状しちゃいましたね。

「あぁ、だ、だって、ここまで追い込まれたらッ！うぉッ！」

ゴツッ！

交互に奥の急所を突かれ、熟妻が一気に崩れる。

「ひいいいッ！これッ！二本で同時にッ！急所突いてくるのんッ！あがぁああッ！」

旦那さんの愛あるセックスより、こっちのほうがお気に入りですか。

「あぁ、愛してるッ！愛してるけどッ！こっちのほうが気持ちいいッ！
愛のないケダモノセックスのほうが断然気持ちいいッ！あぁッ！
あなたッ！か、堪忍してッ！そんな目で見んといてッ！あ、イヤッ！
み、見てッ！見ててッ！！もっと見ててッ！うちの恥ずかしいとこ
思い切り見ててぇッ！！！！」

ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！ズコンッ！

二本のペニスが上下から打ち付けられる。
狂ったように吠えながら、熟妻は、気をやりそうなところを
ギリギリで我慢しながら、その瞬間を待つ。

奥さん、我慢しますね。もうずっとイきそうじゃないんですか？

「まだッ！い、今イったら、中途半端にッ・・・・あぁ、でもッ・・・！
　イきたい、イきたいッ！あぁ、はようッ・・・・お願い、もう堪忍してッ！」

どうしたいんですか？

「一緒にッ！一緒にイきたいッ！射精でイかされたいッ！あぁッ！
　こんなん、うちのひとにもお願いしたことないのにッ！」

ザーメンでイきたいんですね。

「おぉおおおお！ザーメン！ザーメンッ！欲しいっ！若いオスの
　濃いザーメン欲しいのッ！あぁッ！許してあんたッ！
　だって牝の本能なんやもんッ！強い牡の精子欲しいッ！」

ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！ズボッ！

その声を聞いてか、牡二匹がピッチを上げる。
極太のペニスでサンドイッチにされながら、熟れた牝はその肉体で
野獣の交尾を必死で受け止めている。

「お、く、来るッ！チンポ膨らんでッ・・・・あ・・・・・あ・・・・・！」

ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！ドビュッ！

二匹の牡が吠えた瞬間、一気に大量のザーメンが放出される。
受け止めきれない精液は、そのまま熟妻の秘所から溢れ
周りに飛び散りほとばしる。

「おぅ・・・・・お・・・ぅぉおおおおおおおおおおおおッ！！！」

その雄達に負けないほどの獣の断末魔が、熟れた牝の口から発せられた。

残りの精液をゆっくりと種付けされながら、びくびくと腰を震わせ
あやめさんは交尾の余韻に浸っていた。

「はぁ、はぁ、はぁ。」

いやー、凄かったね奥さん。
こっち目線下さい。

「あ、はひ・・・。」

ついでにVサインも。
はい、ぴーす。

「ぴ、ぴ～す・・・♪」

それから、3人の男に7発と
嫉妬に狂った旦那さんに一発
合計8発の牡の子種を浴び
大満足のあやめさん。
腰は痙攣で役に立たず
しばらくザーメンまみれのまま
ベッドの上で脱力している
有様だった。

「はぁ、はぁ、すごい・・・・
こんなセックスがあったや
なんて・・・・。」

満足していただけましたか？
うちも久しぶりに、いい画が
撮れました。

「あぁ、恥ずかしい・・・。
カメラの前であない
本性出させるやなんて。」

ご主人も大興奮でした。
意識してあんな言葉を
ご主人にかけていたんですか？

「いえ、もう無我夢中で
何を言っていたかも、殆ど
覚えてないんです・・・。」

じゃあ、本音なのかも
しれませんね。

「あら・・・でも
そうかもあらしませんね。」

そういってにやりと笑う
彼女の目元は、確かに
数時間前とは別人になっていた。

-----その後。

本来持っていた獣の本性を覚醒させてしまった彼女は
当然のようにセックスの味が忘れなくなってしまったようで
数ヵ月後、正式に当レーベルからAV女優としてデビューすることになった。

旦那さんは相変わらずセックスが弱いらしいが、そんな旦那さんが
AVデビューするための唯一の交換条件が、撮影中の彼女を撮影した
メイキングビデオを必ず自分用に作って欲しいというものだった。
ハンディカムで撮影した簡素なその映像だが、売り物にはできない
生々しい痴態が収録されていて、それを見た日だけは
旦那さんは別人のようにあやめさんの肉体を求めて来るそうだ。

最近では本気セックスしかしない彼女の魅力に気付いた
一部の熟女マニアにも「吉野あやめ」の評判は上々で
当レーベルでも中堅以上のコアな人気を誇るまでになった。
全編ガチイキで、しかも作を重ねるごとに開花するマゾ性が
ファンのニーズにマッチしているようだ。
また、彼女の代名詞であるアクメ時の獣のような本気声も
そのしっとりとした普段の容貌からはイメージできないギャップで
これまた一部の熟女マニアに好評だそうだ。

次回作はギャルのコスプレをして、街中デートから
じっくりセックス、出来ればナンパまでしてみたいと
企画している。

「男優の男の子たちも、うちくらいになると年下のコも多いから
若いコたちにあないに凄い交尾されて、めちゃくちゃに吠えさせられて
泣きながら、おばちゃんのおまんこに本気で種付けして下さい、やなんて
懇願させられるのは、今でもほんまに、顔から火が出るくらい恥ずかしい
んです・・・・でも、やってるときは、本気で欲しいし、男のコのおチンポに
屈服させられる瞬間が、本当に気持ちいいんです。」

あやめさんの本領は、まだまだこれからかもしれない。

吉野あやめ 45歳

旦那同意のリアルドキュメント！

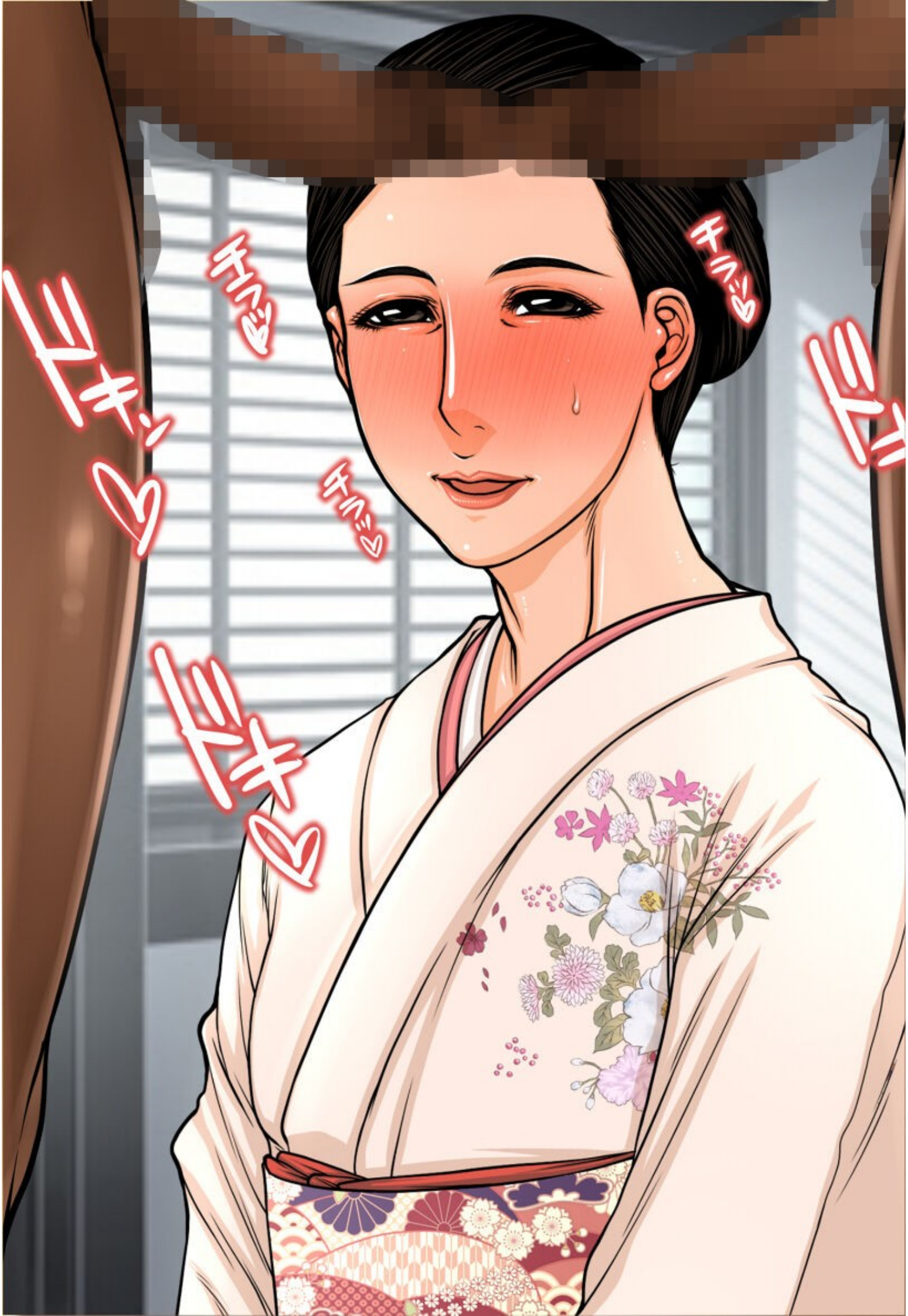
清楚系熟女が自ら志願！
飢えたマ〇コに極太チンポをぶち込まれ
恥も外聞もない獣アクメ全開で完全撃沈！

勇気を出して、初めてのAV。

初めての、快感☆

和装美熟女 x 黒人チンポ

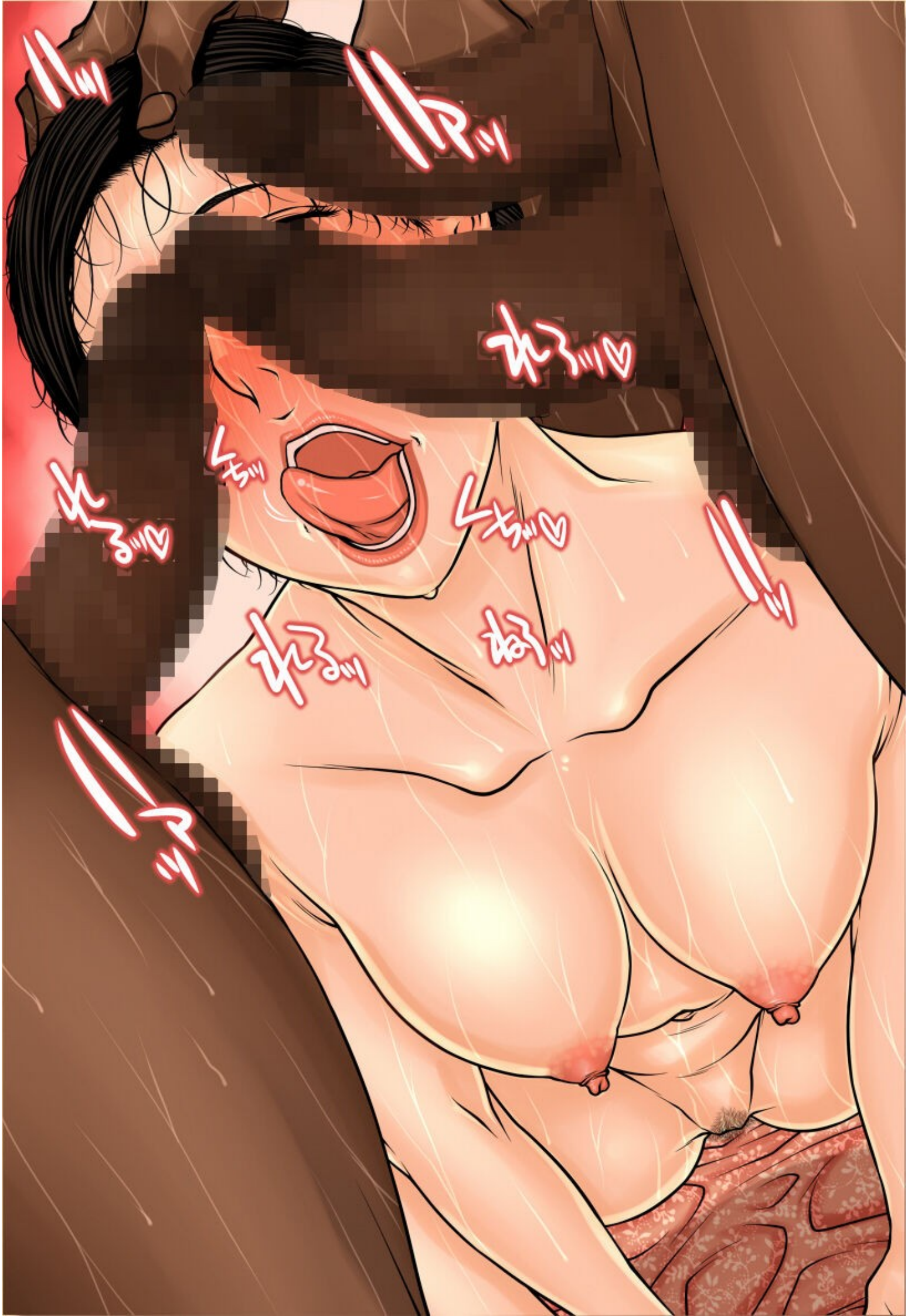
Pd


チラッ♡
チラッ♡
チラッ♡
ドキッ♡
ドキッ♡
ドキッ♡

ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡

ぶぢゅ♡
ぶぢゅ♡
んふぅ♡
ぶぢゅ♡
ぶぢゅ♡
ぶぢゅ♡
ぶぢゅ♡
ぶぢゅ♡
ぶぢゅ♡

ひっ…
!!♡
!!♡
ひっ…
ぐ!!♡
ぐぅ!!
ぐぅ!!
ぐぅぐぅぐぅ!!
!!♡
ぐぅ!!
ぐぅ!!


ハッ
ハァッ
ねろっ♡
くちっ
ねろっ♡
くちっ♡
ハッ
ねろっ
ねろっ
ハッ
ハァッ

パンッ
パンッ
パンッ
パンッ♡
パンッ
パンッ
ぶるるっ
ぶるるっ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ

ひぐぅ♡
ぐぅ♡
ぐぅぅ
ぐぅぅ
ぐぅぅ
ぐぅぅ♡
ぐぅぅ♡
ぐぅぅ♡

パンッ♡
パンッ♡
ぎゅっ
ぎゅっ
パンッ
パンッ
ぐちゅ♡
ぐちゅ♡
ぐちゅ♡
ぐちゅ♡
ぐちゅ♡

ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ドキ
ひら…♡